

# 「ふじのくに」平和宣言

## 骨子

人類は「ホモ・ファアベル（道具を作る動物）」として、他の生物に比べて格段の優位に立つが、その産声をあげたときから、石つぶてという武器をも持った。

今日では、道具・技術の発達とともに武器も高度化し、人類社会を全滅させるに足る大量の核兵器を持つにいたっている。人類の歴史は武器の発達の歴史でもあり、後戻りができないかのようなものである。我々は、武器の発達を座視する以外に道はないのであろうか。

いや、最先端の武器の発達を抑制し、平和を実現した例がある。日本である。

鉄砲は一六世紀における最先端の武器であり、当時の日本は鉄砲の世界最大の生産・使用国であった。

日本は、その使用を抑制し、実質的に鉄砲を放棄し、平和な社会を建設した。その歴史的経験にならうならば、我々は現在の最先端の武器である核兵器の抑制・縮減・廃絶ができると信じる。

我々「ふじのくに」の士民は、徳川家康が主導した日本における平和社会の建設の経験を、現代において学び直すべき平和実現の模範的事例として、広く世界に紹介し、富士山のごとく美しく平和な姿の社会の建設に邁進することを、ここに宣言する。

## 「ふじのくに」平和宣言（全文）

へいわせんげん

人類は「ホモ・ファアベル（道具を作る動物）」として、他の生物に比べて格段の優位に立つが、その産声をあげたときから、石つぶてという武器をも持った。今日では、道具・技術の発達とともに武器も高度化し、人類社会を全滅させるに足る大量の核兵器を持つにいたっている。人類の歴史は武器の発達の歴史でもあり、後戻りができないかのようである。我々は、武器の発達を座視する以外に道はないのであろうか。

いや、最先端の武器の発達を抑制し、平和を実現した例がある。日本である。中国で火薬とともに発明された鉄砲は、西洋に伝播し、西暦一五四三年にポルトガル人によって日本に伝えられた。日本はその模倣製造にたちどころに成功し、一五七五年には有名な長篠合戦で織田・徳川軍は三千丁の鉄砲を用い、連続射撃の戦法を編みだした。一六世紀末の日本は「戦国時代」ともいわれる天下大乱のなかで、世界最大の鉄砲生産・使用国になった。しかるに、江戸時代には武器は鉄砲から刀へと逆戻りし、刀も「武士の魂」としてシンボルとなり、江戸時代の日本は天下泰平の世を謳歌した。

なぜ、それが可能であったのであろうか。同時期のヨーロッパにおいては、ギリシャの理性を重んじる哲学と、中東に淵源をもつ一神教とが融合し、神の真理を理性で究明する運動である「科学革命」がおこり、科学的真理が技術に応用されて産業革命を経験し、自然の大々的な征服とともに戦争の大規模化が進んだ。一方、日本では神道と仏教とが融合し、草木国土悉皆成仏という信仰が生まれ、人間のみならず、生きとし生けるものの命の平等観が醸成されたことが一因ではあるまいか。その理念のもとに、鉄砲は夏の夜空を彩る花火に変わり、能・謡曲や茶の湯・生け花などが発達するなど、いわば生活文化の芸術化が進んだ。当時の最先端の武器である鉄砲の放棄の原因究明は、今後の研究をまたねばならないが、大坂の陣を最後に、戦乱がおさまり、いわゆる「元和偃武」となつて天下泰平になったことは、まぎれもない歴史的事実である。

戦乱の世を終わりにし、平和な社会の建設を始めたのは、ほかならぬ「ふじのくに」が生んだリーダー徳川家康であった。我々は郷土が育てた、この偉大な先人の業績を思い起こしたい。そして、家康が幼少期から富士山を仰ぎ見て育つたことをも想起したい。類まれなる美しい霊峰は、環境や生命の破壊を戒める声なき声を発している。

鉄砲は一六世紀における最先端の武器であった。核兵器は現代における最先端の武器である。かつて日本は、鉄砲の使用を抑制し、実質的に鉄砲を放棄した。そして平和な社会を建設した。その歴史的経験にならうならば、我々は核兵器の抑制・縮減・廃絶が可能であると信じる。我々「ふじのくに」の士民は、徳川家康が主導した平和社会の建設の経験を、現代において学び直すべき平和実現の模範的事例として、広く世界に紹介し、富士山の「ごとく美しく平和な姿の社会の建設に邁進することを、ここに宣言する。

平成二十三年二月二十三日

ふじのくに士民代表 静岡県知事 川勝平太